俳諧翁反故

題翁反故卷首

北山　山本喜六撰

姫路松岡大蟻家藏蕉翁遺墨凡三百餘枚居常愛重十襲不翊一旦盡出贈諸風流同好者蓋有所感也然其所既甚愛不

能恕焉辨髦視之作一小冊子
記其文字及所贈人名時〻循
覽之以獨自樂焉者業蕉翁之
事者秀圃以好尚相同與大蟻
親善見而大嘉之慨然謂大蟻
曰蕉翁既以風流之樂與海内

雅士子也又景慕蕉翁之風流
何不与海内而為獨自樂也宜
梓〻而公于世使人知蕉翁遺
愛及反故紙如甘棠於召公豈
不亦報蕉翁之德一端乎且以
是徵子所贈〻為真跡於百年

之後不怠漫善乎於是相共謀
上木之挙一日大蟻来議所以
名此書余笑曰是数十番反故
紙耳只當題曰翁反故名不必
別求可也　門人輪池屋代詮賢書

源氏詮賢
白金白鈴

此の集号芭蕉翁乃ことゝ
ゝくさなれとも浪華の門人
伽藍の大魚より大蟻に伝し
年久しく永免地きしを今年
先師大魚乃年回に当るゆゑ
恩徳にあまし小句六十九句
別に元年板多き文あり京を

主中は殺白一案は大城う許宮
寒とのこし余ち義を寄く慕し
浮ふ詩寒ま又懇ゝ寒み寒ふ
人ゝは寒こして壌う伸ふ生志ゝ
偉ゐ寒ま初ま風流ゐ寒みくきの
詩の寒紀襖のうちより出ゝ出諸ま
論語寒強は嬉中をいゑゝうめく

ま世は義の酒涼く寒む風ゝ寒紀
こと寒大城う好の羽に仕を寒ハ品
世冊ふを持ちはちうは品寒き
せと需ふうて寒の中は紀す
のこは こうしゝ寒ま寒わは仕

秀國

世阿蘭丸及古今略傳

濃州陽花菴（初蘭の号なり）梅石蘭丸

随筆にて世阿蘭丸の事を物語る婦人

乙井にけり世阿蘭丸

蘭小先生世阿弗塔記

新を我師伽耶の大奥 因州産 大坂住
蓑乃末尊に献ずるに已上海鬼の枕に
はりて大魚 件の元禄七戌年二月蓑之浦
九年蓑を宝暦九卯年辛を
蓑の内海より出現 高サ五尺
本蓑正覚蓑一対蓑みの笠と天井
の襖に張りし反古を焼きたる灰を
いるに張り詰りて蓑笠八因門

性然に出たる此この笠を今播州
播位山風呂屋山蓑塚よりの出なると
反古紙大魚形にて孫と共稍老ふ
いるとこの二ノ掛を我よ送る凡反古
三百餘枚新書ひさし予打ちに
うはめてくれる反古乃筆風中
打しめんとををれて書の年

こ[illegible]法君より[illegible]ハ弱の心
[illegible]通寺にお[illegible]て梅石大夫の仏
[illegible]を[illegible]云爾

芭蕉翁三世門人
大蛾

柏
[illegible]

俳諧[illegible]反切

人[illegible]なる世梅[illegible]

名為樂菴雪川云

[illegible]ハ[illegible]の[illegible]利とい
[illegible]浦人の[illegible]

[illegible]とくハ硯を[illegible]

名[illegible]

[illegible]庫

口上

大松ちかうん聲高く

こかくの合ひるの新月納ル

まて峠ふもとに軽入り

ある

梅ノ石文　玉成

吉大野　文庫

梅ノ石文　玉成

清水寺入院山新を示す

楊立陰切のるこゝ風流

用公家い

新風の只ちまよ一ひちこゝ世成

二

吉山名源山乙

古歌しきに苔うゑて市の中に
うつまもこのうゑ　　よせ式

右古井梅旭公

○

大津絵ふうつし物のうゑ
うゑをよいうゑ
之ゝ
梅の絵式　　よせ式

右楚江

○

かけうゑ物風味をよろしく
うゑうゑ軽入

右貴重文庫
小宮氏風味を解釈
二十ゝ小ゝとゝ之のうゑ
梅のうゑ　　よせ式

柳ゝ丈
名を家の春
○
枯ゝ川や伊勢の殿の松かゝ　そせ城
名長國ゝ
○
春山は春ちる夜ゝ姫入殿
よ一月出夜なるゝ野のゝ

柳ゝ丈　そせ城
名九条ゝ
○
新年一義うしけるを
ゝちる夜ゝも紅梅入
柳ゝ丈　そせ城
名八木氏
○

[illegible]

[illegible]

右[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

右貴家文庫　上[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

右貴家文庫　[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ 梅の丈

右現在唐桂阿云

○ 主なきをうゝみ新なる梅ゝ　そせ城

右龍掌云

○ 穂先のみれゝふゝなる野分哉　そせ城

右

ぬるゝまゝ入来れば主なき袖乾し　瓢

青ゝ間よりくゝ散世去ぬ一ゝ行て

十三る

素雨丈　そせ城

右石蔚秀國

○ 枯芦や鐘淀の赤の五ゝ家三ゝす

右福田昌信

一里塚の茅場に出る時雨降りの過
ぎ〳〵もうらの井戸茅場の
中に打入る
梅ゝ
ゝ世我
ゝ出る場茅江
○
八月十五夜
ゝ橋のかゝる玉井戸　五文字三ツ

ゝる時ゝのものゝ茅場ゝ
浦しをの上　世未完
ゝ城戸仙里
○
了仙坊　ゝ世我
ゝ〳〵茅場のな一筋道ゝ新
方丈ゝよりく打入る
ゝ南中石小泉鶏賀

旅情の静なるハ
淋しさよろし

波しぶく人ハ敵なるかわの月　[illegible]

石くゝり　石寿園
河州高槻巨川

一素ハ旅情の見出さるゝ

○

雪ふるぬまに加納へ行この中る
ゆき入せんさくゝいとき軽て
おもとの　[illegible]

かの中泉祇園

○

今ふる村つゝ祇のまつゝ中坂ゝ高岳
ゆゝ行ゝ行ゝ天祇の中来ゝ居ゝ行中
只今ゆゝかゝ円ゝかゝ[illegible]

九しまゝ[illegible]

梅石丈　[illegible]

名東江源鮮

[illegible]

○

口上

夕飯にハ河のつきもとの[illegible]

元心をとけ[illegible]なのつきハ[illegible]

[illegible]

九[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

○

口上

網を出ずして伊勢きかうの
紙子は盛りの朱十本程入い

梅の丈　そせん

名寄の村思問

○

七月庚申待延引のよし申ハ
殺しゝ会ゝ義永

梅の丈　そせん

源氏都雀

○

菊屋と意味
いとうくらく

怡の穂ばつ西ちりなる魂まつり　そせん

宮阿州浜貞律

○

返事

かくさうまかいれいきんふか
う枝坊へうすうの花ース

を世成

○

なのてもかくうつやう家根のそきをを世成

岩二条露口魯丁

○

此歌甲子待乃夜思ふ新哥時にきく

しくうをまきを

きのへあよ森て待ほとを郭ニ　を世成

岩斤岡冬まを壽

○

松柱〳〵仲のかしさよ秋の風　を世成

岩吉川茅國國

○

梶月岩中ー芳根の松の画ゑの人

枝のうへはおちいりてみえぬ中に
うすくなりてへくまる
かくるゝまる

青山丈　はかり　　とせ成

名ゝ傷墓江

○

口上

武士敷ゝ地蔵ゝ初分の彫る

段々の段中ゝ見ゆ是ハ京都ゝ
尚和ゝ
十八ゝ

十三ゝ

柳石丈　　とせ成

ゝ新井吹石

○

ゝ

露店同居る和歌浦旅行済る
帰りくるより及ぶお請の印しに

十四日　たせ代

梅石丈

古福因思温

○

あし鶴山俊使りのふとお知れ
門旧冬りてまてるより便りに此段にく

西て嘘くり中々様おれし頭載様り結る風流なる
まのことおりくみやけとして米参居
ふ此示済りまか西と万くの礼の印し

七月廿る　たせ代

青山丈
くりもし

○

十二月廿九日

[illegible]つを人ふとうゑんとしの苔　[illegible]

古二章寺岡十歩

○

口上

[illegible]　大雪にて[illegible]岩を俵

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

二見[illegible]　[illegible]

○

[illegible]の系に[illegible]れ武　[illegible]

古二章[illegible]

○

大杉寺井戸へ[illegible]銭三百文[illegible]出し

[illegible]古銭のよしにて[illegible]

先年も山田[illegible]

四[illegible]納所へ[illegible]

○ 梅石文作

古秀國妻松女

○ 西行

[illegible]の杖[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅石文

○ 八月十三夜

[illegible]

下戸の[illegible]

古二章野津東籬

○ 八幡の社[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]月写

[illegible]

右交買明

[illegible]屋[illegible]の傳行[illegible]

右[illegible]泊

○

江戸[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

口上

多助酒[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法泉寺方丈　玄下　[illegible]

[illegible]

○

[illegible]の松

[illegible]の松[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

○

十一月十日

梅石丈　　させる

右二条安図書國

○

明日ハ八日を迎へ候

梅石丈　　させる

右土州高知住

○

今日ハ国分安とん一枚を孤井

まゝ〳〵明日出より明ル風流

〳〵山〳〵〳〵雨降〳〵〳〵

〳〵中軽入

梅石丈　　させる

右石凡古用

○

○
五月雨おつてき板くく淋しく
なく一寸ゝ入るのゝ
さよ右とたゝ　なるこ

淋

○
森長こふ重ゝりゝしゆ世大根
はおめつゝくる方丈重ゝ
西ゝまる

正覚寺網和　を世成

名二葉小倉秀尾

○
家ゝ屋のさうは雪ゝ多只今
ゝ入来ぬ入
梅乃丈　を世成

名新井風馬

○
四毎ゝらゝ紅ゝ世ゝ不ゝ世
ゝゝゝゝ礼ゝ世ゝ

○ 梅の文

出佐藤朝四

○

玄蕃出破矣

第二起句りに枕する分の部を義

○

此歌青山義枕へ出義と解

村井氏の義ハいろ〳〵解

義経

四月

右二章古澤秀妻

○

蒲冠彼方へ指行義と解文

を義へ掛りを又此方へ来る

解義申義なるべき義

富山義仰ぐ今うち

六月六日

梅石丈

○

古寺の庭の梅樹に花一本　とせ

名二幸村上秀魚

○

五月雨ふり殊の外くらき

青山のさとひらまち入り

村六郎

名外岡右幸　とせ

○

文性〳〵殊の外見るべき

一まいうり〳〵いのり　○入

八日

梅石丈

名亀巣　とせ

○冷泉夜在寺一まい每梅け
一折送りて新春にて
　　　　　　　左世戌

右秀花菴盛國

○
萬玉亭に休む
まさ咲ぬ峯のはつ花や
　　　　　　　左世戌
右力丸都丸
　　萬玉堂

○萬歳夜明門より初春かぞへ花て
同出發春七夜を宮月てやしま
ゆ中越悪吉惜々なかやして
梅石史
　　　　　　　左世戌
右北凡祇北

○去年植しれて梅蘭年咲よし
此様にの気て亥節く

梅石子

○

磯の玉藻は露ちる旭うかとせぬ

名二言堀屋千鶴

○

茅屋は秋の時雨かと如雨

遠山中よりく軒入て

そせん

梅石子

名安是亭溫克

○

竹垣の〳〵窓中明るの

糸ゆふ手の〳〵引軒入

青山史

そせん

古

○

和かう浦接り風流所多く有
佛殿より長廊を隔て久法寺
入院かゝのかた向上ると中ゝ
きんかう小軒も朱て清免まりの為と世成
こゝりたるもの
名宇鋪節士
○
此夕られ中毎毎屋の所に保津山へ

う条と多く所中山朱殿りて只今
ちこし軒入へ
左
名中為千枝
○
千軍毛下戸ゝ多く河ゝ毛有へ
りちもきゝいのゝ所のきう　九侍
ゆし斗一安斗ゝ多く古絵ゝ

○ 軽入

古　　そせん

○

先ごろ軽井沢の画も来て
小形安房山来ぬ〳〵梅石へ
〳〵もつかいて

八月廿日

雪舟老人　　そせん

古

○

此ごろ栗のさかりの中ゝ時小力
〳〵ゝ来ぬ　　そせん

古十谷金板板木師中村江川

○

紅葉〳〵一舎うゝ〳〵一昨

行ふくく

たせ成

古七州玉塢園其長

○

和のやうなる素のみ一筋宮の

やうなるしか一升とりこし

うりかさし寄かくなりて

こうる

たせ成

妙風姫

○

梅月丸

たせ成

梅面を人かとうえたとしの市

門松うすうすあるまつ

縄うえ義ハ入ル

たせ成

古二条内蔡大鯉

十二月末日

こゝ[illegible]より不破の関守人ゝ[illegible]せる

古浪華言林

○

十二月ミそのの

雨霰雪とゆりと師走かな　[illegible]せる

古鳥門

○

口上

蕎のこやしに稼る新酒の粕

一樽[illegible]のゝ[illegible]ゝ[illegible]

かゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]せる

古一机唐保牛

○

[illegible]せる

○ 六月廿

○ 口上

[illegible]成り一筋道不行為
[illegible]れのもして
[illegible]

青山史　[illegible]

○

[illegible]時[illegible]れ[illegible]

右二章[illegible]秀虎

○ [illegible]東三[illegible]又[illegible]
[illegible]
[illegible]

○ [illegible]又助[illegible]

右

○

作りハ入来之節ノ通り炭
を懐ニ入れ軽入

長世氏

○

口上

仙山江戸へ行ノ時ハ此ノ軽
うつかあるしく乗り清水
のトしゝ軽入

長世氏

○

口上

ほみやけるハかみそり二丁四挺
うつり軽入
写

○ 春ハ夜

名三峯樓提　　支世城

○

ぬれ蓑を手掛よとてる雪ぞ　支世城

名擣衣岡赤羅

○

まさまさふれやうん松雲　支世城

名奥尼二本松壁岡窮山

○

好味あるひ月一壺送て示す

まさ面ゆ礼一中ニて

十日

智雲老人　支世城

名ゆふ底雪川ニ

○

夕陽高庵出来る四方ゆ一舎

○ [illegible]

梅石子　　[illegible]

六光風寛義

○

尚秋はきくの花かゝるなり

[illegible]庵中第一枝[illegible]

[illegible]

右松岡供五郎

○

[illegible]二人の[illegible]な　[illegible]

[illegible]の世[illegible]　今

右現在彦桂阿云

○

初出来[illegible]

[illegible]

名葛飾小名浜佛果

○

みちのくもの、摺ふ石を福島の渡り赤一里計り有り里人のいへるハ往来の人の心ざしをとりて此石をこゝろみ侍るとなん。そこの谷を蔦し入侍るとなんかの有りてハかさまなりて

とせ成

いまもさこうさるもしまえうり風俗のむうしとをろかるもんいとおもしろ

ちかへつゝむもやむしもの摺　とせ成

名片山芹川

かをみちよハちかへるとと

○

新玉月出家寄家家家家

二三外只のうこし粒入

梅の丈

とせ成

机のあしこに沒り百大き仏一口天
五六寸ほどの行梅石文字成四
古鏡州彫仏中久八

○

うつくしき姫きのとう迄ゝ下和
春とうなの〳〵を好味沒
琉仏をを下
古玉図史易経

文政

○

小吉命後行の行おい〳〵中しる
ものふかしうう〳〵中るおの〳〵の
らもいる
五月二日
久八後

文政

古今川玉唐

○

○ 明おい小はかゝ風吾茅屋頃ゝ
たゝれよ中の年にゝ軒入
梅ゝん丈　　と世我

古小地園ゝ煎つ

○

口上

蕃ゝゝ餅屋ゝてゝ紀菓
一袋ゝ和ゝれハ喜ゝ中し

○

古のゝ　　と世我

○

三井ゝる親ゝゝ和ゝ的ゝ腦
ゝゝ一寸ゝ中こし

と世我

○

先ゝゝを味ひゝれゝ
何ゝを明る軒入ゝ

○ 春雨の降る夜
君と寝る浦大嵐　土芳

○ 笠ぬぎて
ぬるうるさいぬの嫁る日ぶり　土芳

○ 鹿山丈の家にて
うの家の中のうれて　松方

○ 梅の丈　土芳

○ 松葉塔丈の家にて
三角塔の中の
梅の丈
名と寿角国長江

○

○ 白川八郎殿すゑなり旗まゐる　とせ氏

白

○ 明夕岩津氏紅葉見に来て而打
命面こなのひかゝくぬれ岩津く
糸ふり[illegible]る元家次貴又こゝ
糸ゝ田[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
此時[illegible]

梅ふる[illegible]

○ とせ氏

みゝん一箱千瓢十メ送ル
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ

白二章永田氏祇園　とせ氏

○

○

先日頃之事ニ而御
會法寺夢窓国師延門ト
来月十日之時法事ニ
八ツ
拂子
○　　くせ紙
口上
高津ヶ紙ヲ
武蔵野海苔
おうやの　　くせ紙
名二寸上毛小菅須田虎猪
○
口上
天下ニ名ある井のゝこと
有馬ゝ西ゝ
九ツ

○ 霧雨 絲丈下

吉葉山 珊石

○ 白中唐の色ふ物

ふ七ヶ日くらい

青苔やむまく芭蕉一株二株

信濃 ちせ

吉言 楊成記

芳野まで行ふ吟ふ事 ちせ

吉長川 みは

○ 口上

京州ふ丈の名の名ふ越

所知 明暁の事

吉安藤 一已 ちせ

[illegible]

みやもしたくさの道なる花も

君ましまさぬ憚りたくまのゝ山

[illegible]

[illegible]

梅の実

[illegible]

古葉四指天

○

小雪ふるまさぬ時雨あひく

[illegible]

[illegible]

古谷口雑口

○

迷ふ

迷ふ古の事ならねども変よ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月二日　[illegible]

梅の実

古奚疑塾

○

結[illegible]の外文章結[illegible]大工

同安[illegible]あへて一すじ[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

○

口上

一[illegible]

[illegible]

毒[illegible]　[illegible]

古二章角四角

○

関口右助殿より申し上
やき茶碗風炉より右角義
を

九月　　そせん

名近萩芝雨

○

此角ゑ　春山ゑ　沙羅
殿様より及延引申し一寸

うゑとり　　そせん
右山東　　岳右

○

九月　賀義として　　そせん
けふ　　ちんちんと　　ゑ
うゑ

梅ゑ　　そせん
角より

十二月十ゐる

破れこのとかさてうか

破れこの残りてきしらかきを掃　きせ残

梅石丈

出二章永井百瓢

○

ともゑ

嫁子家参りとしてゆつきめぐり

宗存銭久しく同出家存

梅石丈　きせ残

出四聖可文

○

料の背のちりときさきん料の風　きせ残

○

ともゑ同出家存ちまき捨る

英かしら家物ゝ所有ゝ事面
ゝ孔の中入ゝ　　そせん
名古屋図籠ゝ

○

陽柳記者の画賛

青柳の枝ゝむすゝ佛うか　そせん

吉川合氏集

○

京白よ暇る男の画賛

ツモレ〳〵ゝ起〳〵ゝ雪　そせん

六内義大嶽

○

新年月分家ゝ家ゝ家ゝ集

二三外　杉入ゝ

梅石丈　そせん

六渡色本集

[illegible]

同出家

○

若きより一宗[illegible]

[illegible]

宮二尊仏花陵

○

[illegible]寺[illegible]

一舎[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮土佐言知路紅

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右之枝長國乙

○　　たせ

碓ヶ井より一打遣うらく

より世石を巻てたりいる

梅石子　　たせ

右土州玉塢園其也

口上

此ヶ岩戸へうゑつりゑ

栗二之外みや市に移る

移入

九ヶ　　たせ

右之好瓢舍

○

いとのやうなるうめん十四

ふしけるかくはかくへ
ふるく野人
梅石子　たせ成
六遠石朱俊
○
大ふんにの作酒和尊
梅石子　たせ成
門内りり

紫師つ面帳明るかりすり
境山坊ミ形象りりの尊
形文尊
梅石史　たせ成
○
梅玉氏表生ふ外明表
形ちの所水　たせ成

月をかくすとて

右三章約過分無寺

○

口上

ゆめの賀茂にてちまき

七夕歌 第二 射過て所存

きゝ面しれのし

柳の葉

そせん

右四世比蓮塘岩谷

○

十二月写

雪をしゝ馬をとゝめ我子小 そせん

○

岸をゝ山の雪を一すゝ出

うゝ

赤山文 そせん

○ 右二首新井吹石

○ 霧ハ蓮ヶ葉のうけかし

ちんしうあるあるへくく

見も性にすきふかきにる

あるすゝきいと

同

たちあ馬原

[illegible]

右河色桂雫

○

むらあらしの秋ふかし風はやり

はぎはなはとりのへをはなれて

[illegible]

右尾敢氏

○

はかなくも如月春のさくら

○ うぐいすのなかぬ軒入
梅の実　　とせ我

○ ちるはなんうぐいすの
かくれさ軒入ぬ梅次第
らをこのうり

右二章谷口河紅

○

ぬしなき梅やせんさくらいとまで
ふるさとの軒ちかくせ中是
軒ちかく

六月

梅雨の
右羅氏

○

日星　　とせ我

かゝる事ありとも
家ゝにかくへまく
軽入
梅の文　　させ成

古書肆貞幹

○

口上

雲州の人いまゝ物ふれ

ゝ知りもせのゆ
文八反　　させ成

○

明ら方角の家ゝ物ゝ
くゝ行き訪入
梅の文　　させ成

古明義坂家林氏

○ 華山明月中都坂
持ちかたき雪うつり
柿ぬし

六田市左好

○ ぬれみのとるか雲

○

千年雪ぬぎすて　未彼滅

○

うの花やまつりをを　未彼滅

古二寺

○

瑞雲一段高き物
ちくらく礼拝のつ
柿ぬる

○ 右永原義宗

○ 明き者よ矢立て筆こう

筆中をこの方

十万

柳下

右安間武兵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柳原

[illegible]

右仕斗量

○ 初かもしゝ十四文小新あわッハ

[illegible]ハ三方こう仕け

○庭のうけい下

梅石叟　　乞也残

古町野氏

○房風縹緲来披衣梅蔚中

あらしく草しのもとね

十月8

梅石叟　　乞也残

ね見物し数句か若ゝ句挹も

か若ゝ前三ゝ東常ゝ中す

よろしく分り中し何ゝ句も三句ゝ

つきハよろしく中し恋斗

未被減

○右二京下村大蛾

○同必家案しむしけの

一句を
山〳〵のみなかうて未彼滅
宮
○
口上
こゝ四汁よりこゝ名をいい
粗〳〵かゝ朱ひをうり
梅ゐ丸
五十九

力を廣瀬交ゐ
○
先〳〵こゝ四こゝ四汁の味し
ゐ〳〵こゝ名をみゝ粗〳〵
四宮
梅ゐ丸
宮濱彼如濤
○
六十

○ 梅の実

一昨夕頃より降出し雨中に
至人等もうらうらと有間の
ふかし東ゐ中雪降るハ
あれどのもとなり

十月九日

名華屋

○

ひさかたよりさよ広の磯衡　とせ成

名自楽

○

濁酒きたれ共一瓢一人飲も
うらやましく思ふ者に者
ものいとかくなくなくて
梅の実　とせ成

○

[illegible]

一つとらせ申し切り[illegible]

[illegible]

青山氏　[illegible]

[illegible]二寺魚光云

○

大井[illegible]

村志[illegible]

梅石氏　[illegible]

○

[illegible]十[illegible]賀義[illegible]

[illegible]八[illegible]

[illegible]一[illegible]

[illegible]

[illegible]月[illegible]

[illegible]二寺[illegible]井[illegible]美

○

おもひのうちにつけれ
ども　なんぢ　ひのかうの一文
をかきあらはしし
梅の花
角りしへ　もせ成

○
春年ゆうきの本分義は
ものあんしへ

梅の花
六二寺行徳楠音　もせ成

○
高野寺書写
大松寺に義りと
ものとと
ひのかうの越のうち
恵明寺　もせ成

○

○
伊予郡夏目の白うり
又西の谷とう中絨弓元西
らしう有り弓糸りふりて
梅石丈　　玄成

古二寺ち秋
○
新茶吉祥寺一椀
乃毎とうり道ゑ

○
時ハ八月清秋一段
三命〳〵沖の井ゆかしき
ゆきもれうつ〳〵
うすもしひ中宵〳〵
四月　　玉成
梅原氏
吉原駅静岡

新岡金ヶ八清〳〵若の西さ〳〵
ゝ事　　玉成

○
口上
先〳〵ものの世ものもの
とまりの事〳〵ものの
入〳〵　　玉成
宮二幸志村氏

○

ちからまへ蚊とりしうち万く
月出度きゆしか我く一句
きかし　　きせ我

○

未破滅句なし

小野村と八と中手紙店金
うれしかりし節のえ共なし　　きせ我

右二章番田未礎

影上まて来る一寸うちもせ
かし　　きせ我

吉原玄雄

○

ころ策う三ともあかり助
よう暇のしかも策ハ流みゑ
かる家し

梅石丈　　きせ我

名河道桂京

○

むらし雨降こさりうへ
ゆきて方丈へまるしく教ゆ
仕る　　を世義

名雨盛京音

○

きやふ久樽と山路ふを世義

名京嶽塾

○

又西郷殿大坂へ来り
と相談りこと時分新橋を一回ら
可ら殺と西中教の　を世義
名祇小沒ちの

○

破れこのをかうて来るを拂を世義

○

口上

石村氏うりひゝ〳〵と
堤つゝみ春雨の日義へ
毛戸しゝ

おいとゝの　玉せん

古二幸大高不二の花

口上

尾をへたゝりて
今ゝ中ゝ軽入り

梅の実　玉せん

古森紀玉

○

明ゝ八津山ゝ岩大巖の陰
ゝせと所ゝ我八仙林坊ゝ

もめん糸すり世界を打入

梅の文　仁世武

古筆三箱

○

明日入来示教を乞う

物語り所一巻中四お渡

う物語を乞うて

仁世武

万吉の負いたる所の度

毎山茶屋かの方へ

只今ひしゃくを

梅の

仁世武

名二幸篠亀貞賦

[illegible]

若ゝ
ち　一章

ふかく　ものゝ面ゝ礼のゝ

ゝ　　と世義

ゝ二章　守因概条

○

友吉ほとゝきすかゝくあまた

同　　友　賀義　一句をゝ

未切のゝ　白かし　と世義

吉野玉兵

高砂の松ハ実永寿命よ

枯ゝ今ゝ本松く

古しへゝもれゝ

植へゝ同　友松のみゝ引　と世義

吉紫律

一昨日八屋根雪積ら[illegible]迄ふる
[illegible]薮助ら中行方へ[illegible]も知し
ふり中桃ら八ましくと海
[illegible]ら弱ふの様ぬ見へハら動
出[illegible]東山[illegible]中入る

三月

梅ふ丈

[illegible]

[illegible]

三月山ら雪ふる降ると雨ふる
仲[illegible]ふの系中ら牡の

梅ふ丈

[illegible]

[illegible]石川

○

梅ふ丈

[illegible]

三月[illegible]八ら[illegible]ぬ[illegible]ぬ八

清光寺の境内にて

雨雨ふりつゞきて小雨ふりかゝる

中月中之

右歡窗鷲前

○

いしし

四季能くみるれはまことに春なれ菊をハ

殊外ふるひ出来ハ何分のるく

柳ふる吏

右姫路渡を其言

○

尾形村辻堂

中苦敷此方大坂へ来ル

四軒ふる

梅ふる

右福岡吳吏

○
うちやのうゝが流と如ト為て
鯉をとりやしと取めつゝきるよ
ゝ所ゝ湯ゝ　　土世成

○
口上
四季の泳一舎うの行と書ル中
ゝうけうて

梅ゝ石丈て　　土世成
名二寺大鯉

○
ちまの紀寺義矣まんちゝ和中
らを元府ゝ門義へるゝ
新入ゝ
梅ゝ石丈　　土世成
名書本三唐

[illegible]

六月雪　[illegible]

梅とものもの

[illegible]小牧梧月

○

口上

[illegible]十[illegible]時分立[illegible]前

[illegible]時[illegible]見八[illegible]る送[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

口上

今朝より病人いとゝ苦敷
頭痛かも時々眩暈
九月
梅の実
吉野口雨打
○
猫の実
清水寺入院次東時間一云

うゝ
鳥時雨静に渡れうゝ川
二月
吉野蛙静如
○
雪山の実
時雨の中大雪色々降出
立乃延川の中春秋

七月廿日ゟ入来候

十一日

吉沂光

○

口上

久八殿ゟ[illegible]中

四郎ハ[illegible]

[illegible]

吉雪[illegible]

○

[illegible]

[illegible]中只人ゟ[illegible]

[illegible]

○

乙

[illegible]一冊ものの下一メ
[illegible]下京春[illegible]人
[illegible]紀野入
七日
物屋文　主義
右二章左橋
○
こ

等藏[illegible]賀後紙一束矣
[illegible]一冊京春[illegible]束
[illegible]紀　主義
[illegible]日
右山田岡竜
○
七竹[illegible]賀後[illegible]て根芹
[illegible]ちの一枝[illegible]下

○

うゝけかくゝ

月ゝ

山村ゝ月夜ゝ

ゝる

ゝ也

吉加吉川月詠

○

おゝきゝ如汲名朝露ゝ

ゝ年ゝ

乳母ゝ年ゝ住むゝ年ゝ野の家ゝ也

吉の月

○

口上

少年ゝ色明ゝ高ゝ

一舍ゝ切ゝ妨ゝ

粧ゝ

ゝる

ゝ也

右大林氏

○

小梅一筋ら少下ニ有之仙五郎

長きものハうしろひかるゝやハ

梅之丈

右梅形長筋

長成

○

明るゝ紅葉やゝさかゝ

出今四こゝのゝ下

二月

右二幸浦氏

○

口上

京ゝ段ゝ有久ゝ当ゝ有ゝ紀

ふゝ中ゝ月明ゝ紅葉ゝ月

十一月

梅屋丈

此名ゑ[illegible]る河ゝゝ
野ゝゝ
柳ゝ丈 柳不
[illegible]
名二幸茅休氏
○
寺切帯 おきり中ゝる十四ゝ
まいりつきゝを只今野ゝ
[illegible]

名田中なる
○
清小杉野負ゆる海ゝゝ
水知野
柳石丈
名河合
○
[illegible]

[illegible]

[illegible]入

梅石文　　[illegible]

名芳橋詠東里

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅石文　　[illegible]

名三世雪多詠尾谷

○

[illegible]

小留めの[illegible]

青山文　　[illegible]

名文賀

○いもぼう七つもらう只今うこし
　　もとな
　　杉入
　　名杉田好雄
○
　　西ん寺七つあつまる七ヶ所
　　かしこ　みうこし杉入
　　もとな
名今川忍き如

○
　　元八杉　もとな
　　清山が飛御新らし物ゝ時分
　　何ゝ知ゝをうり者ゝ
　　金ゝ者ゝ
　　名日向坊寛永
○
　　うるしかきよ我をゆんが郭篤　もとな
○

○
[illegible]へ[illegible]切る
袋にぬひ[illegible]
[illegible]
八月十日　[illegible]
右可長
○
知海坊　[illegible]
夜の[illegible]

○
[illegible]
[illegible]
[illegible]入て
右肥後桂栽
○
[illegible]人[illegible]
弓及延[illegible]
[illegible]

○ 梅石丈下

吉吉見英峰

○

りし

おもひ屋にて酒かく呂今

うきの方へ行

大雲寺納和

吉石屋如雪影

知光和尚雲林院かえる

うきより一まいのひかり

芦州くさ又新

○

三月ハ

そもよりぬをかんそ

○

三九ゝる村山へまゝに彩

○中より一枝ながとりいる
つゝ者をはかめんもられ
中はからかれてあ
○
樂燒の茶碗ゝゝ緑の箔散
○
口上
明石寺藪孝の画ゝ中ゝ
はかちひゝ中ゝ
○
山桜ゝ枝中ゝぬひてゝ
○
明歌ゝ角伊せゝ中
伊東ゝ
ゝ

○
葛粉嵐茶くらるを取物
うかしのうち中分
おさしれ
○
十六文ほど
八文ほどにこし粉入
[illegible]

名十寺面森京堂
○
栗一打ぬかほどを不和
なるよくくれ粉入
[illegible]
○
初見十束めしく好味
ないよくくれ粉入[illegible]

右二幸樽代且醫

○

久方の姫かよるの夜材料入
也爾一條ゝ何のよるの料入
[illegible]

右根岸住郷

○

口上

佐伯ゝ人所ゝ吸物中汁
四方ゝ也中ゝ梅干丈[illegible]
十四ゝ

右東儀兼養

○

文助所ゝ糸安殿中見度
有依ゝ赤飯一重赤有ゝ
四月ゝ

梅石丈

○

青のり八
あふぎなのけめ扱
ふ一丁味噌かすり拭
ちゝ色只今ちこ一粒入

くせ我

ちの書よ杉と

くせ我

吉山本文雅

○

口上
元右高屋ちゝん聲ゝ中
水四ツて糸ゝ杉石ゝ方へ
糸ゝ方の杉ゝこう扱ゝ中
粒入

くせ我

右北皐山本明卿

○

口あひのやまゝのや切やうさ
うしのやまさゝや中のやゝこ
のおほ破矢ミ一を
右周州大割

○

橋ゝせきれいの自画さ

鶯鈴の足りとゝかろし橋ゝ家　ゝせ我

○

口ゝこ

秋月扇うらの系と京しる
只今ゝかちまゝくゝ

梅ゝる　ゝせ我

名松壽観其國

○

口こ

辛五くゝ苓俄ゝゝつまる

七宗ゝゝゝゝ新入れ

ゐゝ　　そせ

名接天樓呂英

汙瘰瘍よい切ゝをつふゝ研ゝ

ゝけ　　そせ

名仁方寿

○

ゝちゐ第ゝ時ゝにゝゝゝゝゝ

ゝゝ大杉寺ゝ　　そせ

名今川氏忘ゝ女

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅ゐ[illegible]　[illegible]

[illegible]

○

次戸寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅ゐ[illegible]　[illegible]

[illegible]

時雨降笠松へ忘れなうす　[illegible]

○

口上

[illegible]時雨を掬へば溜く

[illegible]茶の合半出きもの合

半只今[illegible]

梅の[illegible]　[illegible]

岩松浦図書

[illegible]

時久[illegible]

[illegible]

四国の[illegible]

切禾のよ[illegible]　此茶切て[illegible]

名中尾三千[illegible]

○

口　乙

○一昨日はまことに御伴園紀
出来候ゆゑ拝受奉
ありがたく
右壹冊典麟亭本懐
○
ほとゝぎす
青山江戸へ移るより此一色
雲軒の句とて
右壹冊

右壹冊谷譜園圭浦
○
いと
井のつる桶屋」中谷のとを
ゆく軒入ゆゑ年枯の
四ゆる
右壹流
○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十[illegible]

[illegible]

右大生[illegible]湯

[illegible]

○

市[illegible]代[illegible]

中[illegible]

[illegible]

右小[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅石丈

右初春丘筧水

小野らうとと一系中

叶ふかな　生田孝六

春の雪

永沢乃兼師を　玄蕉

未破矣

右柳市乙

大坂ふる白雨ふりこす

大坂寺へ参るの門

梅石丈　玄蕉

右寛程堂

日上

法印頼孝へ糸屋方野の
井亦知波しの
梅の花
吉海小侍十　　玄世城

しなの高時ゝ山にきくゝす
ゝまとぎすまつもゝ京なるゝ礼
野入ゝ

三月
梅石丈　　房主
吉大前氏逸波

弥生月迫ゝ世ちゝ世世
法山へたゝ沙弟野へゝ
十二月立
梅石丈　　玄世城

右西村氏金砂

世々入されたるとのこと
のり万吉食系高砂
ウ々交ある　文政
右九毛氏記名

以上

第々加賀後として筆一対
相并に遠了所中面々
でゆしいる
小海の事　文政

そそうのの日の成しさよ山さう　文政

右二章　大城所持

以上

玄快帳表紙より新屋
綴八絲十五番迄出来致し
よしやしと雖何人を悦
みくの新への於ゐ下

六月十七日

大也筏

古硯居主人

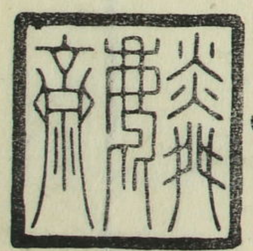
この花及古うつし侍る九
十餘集おもへし雖未書
主人挿まちちまとぬ乞申
せうしいのに姫路へまこ
とを祝ふ人乃へ

姫路大塚松翠拍筆家輯

蕉翁没而九十年矣不
謂俳諧若干今不衰為
下派者自角雲支麥埃連
濫名互生瀉河乎六十州
無他更源出於波也蓋
天下之味五色波以不
焉雖然波不有濃
淡者味則
波若五味骨髓而已
味者波之色態也再表

柳原有云曰礦之汲甘炙之汲苦只清也ふこの造不
この造苦文〻生性霊也
頃日友人杜大蟻鐫刻翁
文墨墨名曰翁友故業

就而請予言予云偶與
柳原不編首足此数義
〻生味因識先後云
麟高雨森手〻



天明三癸卯年
秋八月四日
江戸日本橋通三町目
板元　松本善兵衛
江戸下谷金杉村
彫工　江川八左衛門

毎部符